

⑤研究指導・研修等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
国際研修「紙の保存と修復」(セ05)	文化遺産国際協力センター	73
文化財の評価・活用に関する助言(企)	企画情報部	74
無形文化遺産に関する助言(無)	無形文化遺産部	74
文化財の材質に関する調査と援助・助言(保修)	保存修復科学センター	74
文化財の修復及び整備に関する調査・助言(保修)	保存修復科学センター	75
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言(保修)	保存修復科学センター	75
文化財の虫菌害についての調査・助言(保修)	保存修復科学センター	77
保存担当学芸員研修(保修10)	保存修復科学センター	78
連携大学院教育(共)	保存修復科学センター	80

国際研修「紙の保存と修復」(⑤セ05-13-3/5)

目 的

日本の紙本文化財は海外の美術館、博物館でも多く所蔵されているが、適切な保存修復を行うことのできる専門家が所属していることは少ない。また、そのような日本の紙本文化財の保存修復に関する情報や経験を得る機会が提供されていない一方で、要望は非常に多い。そうした状況において、本事業は海外の専門家に対して日本の紙本文化財についての知識や技術を伝えることを主たる目的としている。さらに、こうした技術は日本の紙本文化財のみならず海外の文化財に対しても応用可能な内容であると考えられる。

概 要

紙本文化財の保存修復、および修復材料として和紙を使用した文化財の保存修復に関する研修を行った。本年は昨年に引き続き国内及びメキシコにおいて研修を実施した。

1. 日本国内研修（文化財保存修復研究国際センター（ICCRUM）との共催）

- ・国際研修「紙の保存と修復」(International Course on Conservation of Japanese Paper)
- ・場所：東京文化財研究所、その他
- ・期間：2013（平成25）年8月26日～9月13日
- ・参加者：アメリカ、アラブ首長国連邦、ドイツ、カナダ、オーストラリア、イギリス、マレーシア、スイス、ボリビア、グアテマラから1名ずつ計10名
- ・内容：日本の紙本文化財における伝統的な修復材料や道具、技術についての講義や実習、見学を行った。実習では装幀技術を用いた方法での卷子修復、製本を行った。

[講義] 早川典子「日本画修復に使われる接着剤について」、加藤雅人「紙の基礎」、君嶋隆幸「書について」。

[実習、その他] 卷子修復、冊子綴じ、掛軸・屏風取り扱い、所内見学、討論

[スタディーツアー] 2013（平成25）年9月2日～6日実施。岐阜県美濃市（長谷川和紙工房、美濃和紙の里会館、美濃史料館、美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区）、名古屋市（紙販売店、徳川美術館）、京都市（修復材料・道具店、岡墨光堂（修復工房））

2. メキシコ研修（ICCRUM及びメキシコ国立人類学歴史機関（INAH）との共催）

- ・ICCRUM-LATAMプログラムにおけるInternational Course on Paper Conservation in Latin America
- ・場所：メキシコ国立人類学歴史機関（INAH）
- ・期間：2013（平成25）年10月6日～22日
- ・参加者国名：メキシコ、スペイン、ウルグアイ、ペルー、アルゼンチン、エクアドル、ブラジル、メキシコ、プエルトリコ
- ・内容：研修の前半は、装幀修理技術に用いる材料、道具、技術をテーマに、日本人講師が講義、実習を行った。研修後半では、装幀修理技術の研修経験のあるメキシコ、スペイン、アルゼンチンの講師らが、日本の材料、道具、技術が欧米の文化財修復に実際にどのように活用されているかを紹介し、実習を行った。また、本プログラムの一環として、2013（平成25）年6月28日～10月15日の期間INAHの職員から1名を招聘し、和紙を欧米の文化財修復に応用するための基礎的な研究及び研修を行った。さらに、2014（平成26）年3月2日からも別の1名を招聘し、26年度も同様の研究および研修を引き続き行っていく予定である。

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、楠京子、山田祐子、川端冴子、山之上理加（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存修復科学センター）

文化財の評価・活用に関する助言 (⑤企)

美術工芸品を主とした文化財の評価と活用に関する下記の各種委員会等へ出席し、指導助言等を行った。

- ・千葉県美術館資料審査委員会 1件
- ・府中市美術品収集選定委員会委員 1件
- ・岩手県立美術館美術品収集評価委員会委員 1件
- ・佐倉市立美術館運営協議会委員 1件
- ・公益信託 倫雅美術奨励基金運営委員 1件
- ・茨城県近代美術館美術資料審査委員会委員 1件
- ・愛知県美術館美術品収集委員会委員 1件
- ・小杉放菴記念日光美術館評議員 3件
- ・秋田市千秋美術館協議会美術作品等評価審査委員会 1件
- ・秋田県立美術館アドバイザー会議 2件
- ・迎賓館の改修に関する懇談会委員 3件
- ・芸術文化振興基金運営委員会美術専門委員会専門委員 2件
- ・豊島区美術品等収集・活用委員会 3件
- ・雪舟研究会（山口県立美術館） 2件
- ・『真宗の美』（仮称、福井県立美術館） 1件
- ・『黒田清輝展』（長野県信濃美術館）（展示指導） 1件
- ・滋賀県甲賀市教育委員会 1件
- ・鎌倉市世界遺産登録推進担当 1件

無形文化遺産に関する助言 (⑤無)

無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した（石崎武志、高桑いづみ、飯島満、久保田裕道、菊池理予、今石みぎわ）。

- (1) 伝統音楽普及促進支援事業（文化庁）への助言 1件
- (2) 新進芸術家育成事業（文化庁）への助言 1件
- (3) 日本芸術文化振興会への助言 3件
- (4) 岡山県高梁市への助言 3件
- (5) 早稲田大学演劇博物館への助言 2件

文化財の材質に関する調査と援助・助言 (⑤保修)

(1) 文化財の材質調査

様々な文化財資料について、その材料や彩色を科学的に調査し、化学組成や化学的構造を明らかにした。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施した。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した（早川泰弘）。

(資料名)	(所蔵者／依頼者)	(調査月)
漆工品	出光美術館	2013.5
建造物飾金具類38点	平等院	2013.5～8
明治期絵図3資料	群馬県立文書館	2013.6
日本画	東京藝術大学	2013.6
日本画顔料	平等院	2013.6
金属製品	平等院	2013.6～10
日本画2資料	宮内庁三の丸尚蔵館	2013.8～10

(2) X線透過撮影による構造調査

X線透過撮影を用いて文化財資料の構造を調査し、資料の制作技法や劣化の状態を明らかにした。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した(犬塚将英)。

(資料名)	(所蔵者／依頼者)	(調査月)
仏像	大津市歴史博物館	2013.6
鎧	一宮市博物館	2013.6～8
桐油蒔絵板壁	日光東照宮	2013.8～2014.3
冑	東京国立博物館	2014.2
仏像	文化庁	2014.2
鉄斧、鉄鉈	東京国立博物館	2014.3

文化財の修復及び整備に関する調査・助言 (⑤保修)

- ・各地の国宝、史跡や重要文化財の保存や修復に関する指導助言を行った(北野信彦、朽津信明、中山俊介、早川典子、森井順之、佐野千絵、佐藤嘉則)。

国宝高松塚古墳壁画、特別史跡キトラ古墳壁画、重要文化財巖島神社反橋・荒胡子神社本殿、国宝白杵磨崖仏、史跡屋形古墳群などうきは市内装飾古墳群、国宝東照宮陽明門、重要文化財菅尾磨崖仏、国宝平等院阿弥陀堂(鳳凰堂)、史跡竹原古墳、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡葦山反射炉、史跡萩反射炉、史跡原爆ドーム、史跡石巻市石井閘門、国宝東大寺法華堂 安置仏像群及び同寺戒壇堂塑像四天王立像、国宝銅造阿弥陀如来坐像(鎌倉大仏)、国宝瑞巖寺本堂(元方丈)、重要文化財通潤橋、史跡薬師堂石仏附阿弥陀堂石仏(小高磨崖仏)、京都市平安京跡出土資料、白杵市内キリシタン遺跡、大山崎町宝積寺石造塔、史跡大牟田市 萩ノ尾古墳、広川町石人山古墳(史跡八女古墳群)、八千代市長福寺五輪塔、長崎市出島遺跡、史跡双葉町清戸迫横穴、史跡小田良古墳、絵金屏風、東京都指定文化財候補地の史跡整備、小石川後楽園得仁堂内螺鈿漆机、一宮市博物館所蔵仁王胴具足、東京大学史料編纂所「落合左平次道次背旗」、鹿嶋市龍蔵院所蔵両界曼荼羅、国宝薬師寺東塔、重要文化財清水寺奥院、重要文化財石清水八幡宮、史跡宗像市田熊石畑遺跡、史跡桜京古墳、史跡富山市北代遺跡 計44件

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言 (⑤保修)

国宝・重要文化財などの指定品及び東京国立博物館収蔵資料の展示・収蔵・借用に関して館内環境調査を

⑤研究指導・研修等 Area21

行い、報告書を作成・提出した（犬塚将英、吉田直人、佐野千絵）。

青森	是川縄文館		中野市立博物館
栃木	宇都宮美術館	静岡	久能山東照宮博物館
	足利市立美術館		静岡市立登呂博物館
埼玉	埼玉県立さきたま史跡の博物館		佐野美術館
	熊谷市立熊谷図書館	愛知	名古屋城総合事務所
	朝霞市博物館	三重	石水博物館
千葉	千葉県立中央博物館大多喜城分館	京都	京都国立近代美術館
東京	五島美術館		八幡市立松花堂庭園・松花堂美術館
	東京都美術館		樂美術館
	板橋区立美術館		霊山歴史館
	郵政博物館	大阪	逸翁美術館
	渋谷区立松濤美術館		あべのハルカス美術館
神奈川	横浜美術館	島根	松江歴史館
新潟	新潟県立万代島美術館	広島	安芸高田市歴史民俗博物館
福井	福井県陶芸館	山口	下関市立美術館
長野	長野県信濃美術館	福岡	北九州市立美術館
	市立岡谷美術考古館	長崎	長崎歴史文化博物館

現地調査は板橋区立美術館・高知県立歴史民俗資料館・久能山東照宮博物館・八幡市立松花堂美術館・多摩美術大学美術館・静岡市立登呂博物館の6館。

また北海道開拓記念館など、全国100館の新設既設美術館・博物館等文化財展示収蔵施設に対して環境改善に関する相談を受け、助言を行った。これらの館については各館ごとに環境調査ファイルを作成して調査を行っている。

北海道	北海道開拓記念館	千葉	千葉県立中央博物館	大多喜城分館
	北海道立近代美術館	東京	外交史料館	
青森	是川縄文館		国立国会図書館	
	弘前市立博物館		日本銀行金融研究所	貨幣博物館
秋田	秋田県立美術館		東京都美術館	
福島	福島県文化財センター白河館		東京都写真美術館	
茨城	徳川ミュージアム		東京都庭園美術館	
栃木	足利市立美術館		板橋区立美術館	
	宇都宮美術館		渋谷区立松濤美術館	
	さくら市ミュージアム		五島美術館	
	荒井寛方記念館		静嘉堂文庫美術館	
	佐野市立吉沢記念美術館		すみだ北斎美術館	
	日光東照宮宝物館		たばこと塩の博物館	
群馬	群馬県立歴史博物館		多摩美術大学美術館	
	光恩寺		東芝科学館	
埼玉	朝霞市博物館		三井記念美術館	
	熊谷市立図書館		立正佼成会開祖記念館	
	埼玉県立さきたま史跡の博物館		郵政博物館	
	城西大学			
	水田美術館			

神奈川	岡田美術館 鎌木清方記念美術館 川崎市市民ミュージアム 鎌倉国宝館 長谷寺宝物館 横浜美術館		仏教大学宗教文化ミュージアム 元離宮二条城事務所 八幡市立松花堂庭園・松花堂美術館 霊山歴史館 樂美術館
新潟	新潟市美術館 能生白山神社	大阪	あべのハルカス 逸翁美術館
富山	富山県水墨美術館 森記念美術館（仮）	兵庫	神戸市立博物館 兵庫県立美術館
石川	金沢21世紀美術館 石川県立歴史博物館	奈良	橿原市千塚資料館 奈良県立美術館 東大寺総合文化センター
福井	福井県陶芸館 福井県立歴史博物館 福井県立若狭歴史民俗資料館	島根	島根県立美術館 松江歴史館
山梨	平山郁夫シルクロード美術館 山梨県立美術館	岡山	成羽美術館
長野	市立岡谷美術考古館 長野県信濃美術館 中野市立博物館	広島	安芸高田市歴史民俗博物館 三原リージョンプラザ
静岡	佐野美術館 静岡市立登呂博物館 久能山東照宮博物館	山口	下関市新博物館 下関市立美術館
愛知	名古屋市美術館 名古屋城総合事務所 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 豊橋市美術博物館	愛媛	宇和島市立伊達博物館 新居浜市総合文化施設 松山市考古館
三重	三重県立博物館 石水博物館	高知	高知県立歴史民俗資料館 土佐山内家宝物資料館
滋賀	観峰館 彦根城博物館	福岡	北九州市立自然史・歴史博物館 北九州市立美術館 福岡市美術館 福岡市博物館
京都	京都国立近代美術館 桂文化財修理工房 京丹後市立丹後古代の里資料館	長崎	長崎歴史文化博物館
		熊本	天草市立天草キリシタン館
		大分	大分県立美術館
		宮崎	宮崎県立西都原考古博物館
		沖縄	沖縄県立博物館・美術館

文化財の虫菌害についての調査・助言（⑤保修）

文化財の虫菌害の調査法や個々の対応、もしくは防除方法全般について問い合わせを受け、調査や助言を行った。

公立・私立の美術館・博物館、教育委員会、社寺等に対して、文化財の虫菌害対策に関わる指導助言を実施した（対応件数33件）。（木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、佐野千絵、犬塚将英、吉田直人）

相談や問い合わせは、一年を通してほぼ継続的にある。相談や問い合わせの内容としては、実際に害虫やカビの被害が出たときの対処法に対する相談や、文化財害虫、浮遊菌などの状況の調査法に関する問い合わせ

せが多い。また、作品や資料を保存するうえで、生物被害を受けないような適正な保存環境にするための相談もある。

現地を見て詳しい状況を把握しないと対応が難しいと考えられる場合は、出張して調査のうえ指導助言を実施した。そのほか、先方の担当者に状況がわかる資料をもってきてもらい、対面で相談を受ける場合と、資料を郵送や、メールなどであらかじめ送付してもらい、詳しい状況を確認したうえで、電話で相談を受ける場合がある。

保存担当学芸員研修 (⑤保修10-13-3/5)

1. 保存担当学芸員研修

保存担当学芸員研修日程：2013（平成25）年7月8日（月）～19日（金）、参加者数：30名

資料の「保存」は博物館や美術館といった文化財施設に課せられた大きな使命であるが、これは単に「保管」することではなく、資料の「文化財」としての価値が環境要因に起因する物理的、化学的变化によって損なわれることを防ぎ、後世に伝えることである。従って、「保存」は極めて自然科学的な行為であるが、それにも関わらず保存を担当する学芸員がそのための専門知識や技術を学ぶ機会は極めて乏しい。そのため、東京文化財研究所では、1984（昭和59）年以来毎年、資料保存を担当する学芸員などを対象とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、現場で自らの手で保存環境を把握し、必要な改善を行うことの出来る人材を育成してきた。これまでの修了生は700人を超え、各地で資料保存の重責を担っている。平成25年度は、30回目となる本研修を2週間実施した。

7月8日（月）

岡田健「文化財保存 概論」
佐野千絵「保存環境 各論－文化財の材質・構造－」
犬塚将英「保存環境 各論・実習－温湿度－」

7月9日（火）

木川りか「生物被害 概論」
木川りか「生物被害 各論－文化財害虫－」
佐藤嘉則「生物被害 各論－カビ－」
小峰幸夫（文化財虫害研究所）・木川りか「生物被害 実習－文化財害虫同定－」

7月10日（水）

佐野千絵「保存環境 各論－室内汚染－」
早川泰弘「保存環境 各論－大気汚染－」
吉田直人「保存環境 実習－室内汚染の測定法－」
吉田直人「保存環境 各論－光と照明－」
地主智彦（文化庁）「保存環境 各論－文化財公開施設の設計－」

7月11日（木）

東京国立博物館保存修復課「博物館の省エネに関するディスカッション」

7月12日（金）

犬塚将英「温湿度実習 解説」
三浦定俊「保存環境 各論－防災・防犯－」
ケーススタディテーマ打合せ

7月16日（火）

「環境調査実習－ケーススタディー」（於：新宿区立新宿歴史博物館）

7月17日(水)

- 山本記子(国宝修理装飾師連盟)「劣化と保存 各論-日本画-」
- 早川典子「劣化と保存 各論-修復材料-」
- 朽津信明「劣化と保存 各論-屋外資料-」
- 中山俊介「劣化と保存 各論-近代文化財-」
- 坂本雅美(紙本保存修復家)「劣化と保存 各論-紙-」

7月18日(木)

- 山口孝子(東京都写真美術館)「劣化と保存 各論-写真-」
- 木島隆康(東京藝術大学)「劣化と保存 各論-油彩画-」
- ケーススタディ発表

7月19日(金)

- 北野信彦「劣化と保存 各論-民俗資料-」
- 北野信彦「劣化と保存 各論-考古資料-」

研修参加者：安藤里恵、上羽真弓、内山侑子、遠藤亮平、大木香奈、尾上仁美、岡本治代、奥村展宏、今野慶信、斎木涼子、佐藤由美加、澤田正明、志田理子、渋谷一成、高梨真行、高橋佳代、瀧朝子、竹上早奈恵、田中洋一、千枝大志、中安真理、根本亮子、弘中智子、松岡未紗、水野哲雄、森元律、山口真有香、山村恭子、山本友紀、渡邊光恵

所属：下関市立長府博物館、茅ヶ崎市美術館、館山市立博物館、岩手県立美術館、岐阜県美術館、佐野美術館、大和文華館、徳川ミュージアム、広島平和記念資料館、皇學館大学佐川記念神道博物館、香美市立美術館、高野山霊宝館、堺市博物館、滋賀県立近代美術館、宗教法人長谷寺、小山市立博物館、新宿区立新宿歴史博物館、鳥取市歴史博物館、島根県立古代出雲歴史博物館、東京都庭園美術館、徳島県立博物館、板橋区立美術館、富山県立近代美術館、福岡市経済観光文化局文化財部文化財保護課、福島県文化財センター白河館、兵庫県立美術館王子分館横尾忠則現代美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、北海道立帯広美術館、奈良国立博物館、文化庁文化財部美術学芸課

3. 資料保存地域研修

博物館・美術館などの文化財公開施設における資料保存は、保存を担当する学芸員の力だけによってなされるものではない。学芸員以外の館長、事務職や警備員、監視員、空調機器の管理・保守作業員など、博物館の様々な業務に携わる多くの人々が共同で行うものである。本研修は文化財保護に関する知識を、文化財公開施設に勤務するできるだけ多くの職員に理解してもらうため、各地の博物館協議会などの協力を得て開催するものである。

[第18回] 日程：2013年12月11日(水)～12日(木) 会場：山梨県立博物館

共催：ミュージアム甲斐ネットワーク、参加者：41名

プログラム・講師

- 佐野千絵「保存環境総論」
- 吉田直人「保存環境各論 温湿度」
- 佐野千絵「保存環境各論 空気環境」
- 吉田直人「保存環境各論 光・照明」
- 佐藤嘉則「生物被害」
- 北野信彦「民俗、考古資料の取り扱いに関する実践的な対応方法」

[第19回] 日程：2014年2月6日(木)～7日(金) 会場：大分県消費生活・男女共同参画プラザ

共催：大分県企画振興部県立美術館推進局、大分県教育委員会文化課、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団、参加者：83名

プログラム・講師

⑤研究指導・研修等 Area22,23

佐野千絵「保存環境総論」
吉田直人「保存環境各論 温湿度」
佐野千絵「保存環境各論 空気環境」
吉田直人「保存環境各論 光・照明」
佐藤嘉則「生物被害」

プログラム・講師

佐野千絵「保存環境 総論」
吉田直人「保存環境各論 温湿度」
佐野千絵「保存環境各論 空気環境」
吉田直人「保存環境各論 光・照明」
佐藤嘉則「生物被害」

連携大学院教育 (⑤共)

東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）

1995（平成7）年4月より東京藝術大学と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と、保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成り、各講座3名ずつの研究所所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。

(1) 開設講座と連携教員

保存環境学講座

連携教授 佐野千絵（保存科学研究室長）
連携教授 木川りか（生物科学研究室長）
連携准教授 朽津信明（修復材料研究室長）

修復材料学講座

連携教授 中山俊介（近代文化遺産研究室長）
連携教授 北野信彦（伝統技術研究室長）
連携准教授 早川典子（主任研究員）
助手 古田嶋智子（東京藝術大学大学院教育研究助手）



(2) 授業及び主たる担当教員

保存環境計画論（前期、火曜1限） 2単位 佐野千絵 連携教授
修復計画論（前期、木曜1限） 2単位
北野信彦 連携教授・中山俊介 連携教授・早川典子 連携准教授・朽津信明 連携准教授
修復材料学特論（前期、木曜2限） 2単位
北野信彦 連携教授・中山俊介 連携教授・早川典子 連携准教授・朽津信明 連携准教授
保存環境学特論（後期、火曜1限） 2単位 佐野千絵 連携教授・朽津信明 連携准教授

(3) 文化財保存学演習（2013年6月4日）

題目：「色を測る」
会場：東京文化財研究所
担当：朽津信明 連携准教授

(4) 平成26年度修士課程入学試験

（2012年9月18、19日） 合格者1名